

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年10月6日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2772401895
法人名	社会福祉法人 まりも会
事業所名	グループホーム樹の実
所在地	枚方市春日北町4丁目1-20 (電話) 072-859-6117

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成21年9月9日

【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	25人	常勤	15人, 非常勤 10人, 常勤換算18.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円(生活保護の方は42,000円)	その他の経費(月額)	30,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(平成21年8月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.2歳	最低	68歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人りんどう会 双葉クリニック、向山病院、北川歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

『樹の実』の名称は年輪を重ねた樹木が育む価値ある実が次世代に継承されることを願い命名しました。隣接している母体法人の運営する保育園が30年前に開設した時と同様、地域の要望と行政の薦めで7年前に開設したホームです。田園風景の中にあり、今年もつばめが巣づくりをしました。ホームの屋上には園児のためのプールを設置しています。夏には水着姿のまま園児がホームの外階段を上がります。窓を開けると園児の元気な声が聴こえてきて利用者の元気を支えます。園庭に続くホームのベランダへは、園児も訪ねることができ交流が生まれます。永年保育に携わってきたホームの施設長は、卒園者や保護者から今でも「先生」と慕われており、地域の自治会、民生委員、卒園児の保護者や商店の方たちから、ホームでの利用者の生活や外出支援を得ることができます。利用者を主人公にした日常生活において、笑顔を大切に、職員も一緒に笑う温かい家庭的なホームを作ることを目指しています。できることは自分で言い、訪問者へのお茶も利用者が運んで下さいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価で示された事項はありませんでした。しかし、評価結果を参考に更にケアの質の確保・向上に生かしています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長(管理者)やフロアリーダーが中心になり、職員と評価の意義を共有し、外部評価を義務として受けるのではなく、自己評価を作成することで、「ケアの基本に戻る」振り返りの機会と捉え、各項目について意見交換を行い、見直し、必要に応じて日々のケアの改善に取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の構成メンバーを定め、外部評価結果の報告やホームの入居状況、今年度の事業計画、行事予定を報告し、地域との交流関係作りの工夫などについて意見交換を行っています。会議の参加者にはグループホームの置かれている現状を知っていただき、今後も地域の方も含め「認知症」への理解を、どのように広げていくのかを考えていく場にしようと、出席者は運営推進会議の意義を再認識しています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	今年は2月に家族会を開催することができ、食事会や交流会の中で、意見や要望を伺う機会を持ちました。日常的には来訪時や電話対応などで、意見・要望を聴いています。いただいた意見は「ご意見ノート」に記し職員間で周知しています。必要に応じて検討し、改善に向けた取り組みを行っています。毎月「樹の実だより」を発行し、日常のホームの様子や行事予定・実施したこと、職員の異動等を報告しています。運営推進会議にも家族の代表の参加を得ています。事務室窓口には「ご意見箱」を設置しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の役員・民生委員・隣接の保育園の卒園児保護者等と日頃から連携があります。地域の「納涼盆踊り大会」への参加や、近くの特養の「夏祭り」にも参加しています。公園への散歩や農道散歩が日課になっており、地域住民とは挨拶を交わし、会話する中で花や金柑等をいただくことがあります。ホームには生活支援や話し相手やハーモニカ演奏等、ボランティアの方の訪問が毎週あります。外出行事の際にもボランティアの支援を得ています。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「人権を尊重した社会福祉事業を行う」「地域住民と力をあわせ、社会福祉を発展させるための役割を果たす」を基に、『グループホーム樹の実の理念』として①自分らしさを大切にし、生きがいの持てる暮らしを共に作りましょう。②地域の中で共に暮らし地域の皆さんと支え合いましょう。とわかりやすい理念を職員全員で作成し、身近なものとして理解しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的に目に触れる、玄関から入った正面の壁面に色紙に毛筆で記した理念を掲示し、職員をはじめ、利用者、家族、来訪者にも浸透してきています。日々の申し送りやミーティング時には業務が理念に合っているか確認し合うよう努めています。また職員の役割として①利用者の尊厳ある個人としての生活を護る。②利用者が安心できる居場所を確保する。③利用者の社会参加をサポートする。④地域に根づくグループホームを創る。を心得て、利用者との関わりについて、実践に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	<p>○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている</p>	<p>自治会の役員・民生委員・卒園児の保護者等と日頃から連携があります。地域の「納涼盆踊り大会」や近くの特養の「夏まつり」にも参加しています。公園への散歩や農道散歩が日課になっており、地域住民とは挨拶を交わし、会話する中で花や金柑等をもらうことがあります。職員と共におやつのお菓子やパンを買いに行くなどを通して、商店や理美容室等とも馴染みの関係作りができています。隣接の保育園児たちがホームのテラスを訪ねたり、玄関先が隣で近いため、保護者と会話や挨拶をすることもあります。民生委員主催のティールーム『ひばり』に参加することもあります。ホームには生活支援や話し相手、ハーモニカ演奏等、ボランティアの方の訪問が毎週あります。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>施設長（管理者）やフロアリーダーが中心になり職員と評価の意義を共有し、外部評価を義務として受けるのではなく、自己評価票を作成することで、「ケアの基本に戻る」振り返りの機会と捉え、必要な項目については意見交換を行い、見直し、必要に応じて日々のケアの改善に取り組んでいます。職員の意見を基に作成した最終の自己評価案は全職員が閲覧できるようファイルに提示し、周知しています。今後は職員の確認サインが望まれます。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の構成員として地域包括支援センター職員、自治会長、民生・児童委員、家族代表、法人役員、管理者、フロアリーダー等の参加のもと、今年度は概ね2～3ヶ月に1回開催し、年5回開催予定です。外部評価結果の報告、利用者の状況、職員の異動の報告、前年度の事業報告、今年度の事業計画、地域との交流、ホームの行事予定、家族会の報告等を行い、参加者とは地域との関係作りの工夫などについて意見交換を行い、家族からの意見・要望を伺う機会も作っています。会議の参加者にはグループホームの置かれている現状を伝え、今後も、地域住民にも「認知症」への理解を、どのように拡げていくのかを考えていく場にしようと、運営推進会議の意義を再認識しています。</p>	○	<p>運営推進会議は概ね2ヶ月に1回、少なくとも年に6回の開催が求められます。</p>
6	9	<p>○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者には日常的に相談・協議できる関係になっています。外部評価結果についても届けています。毎月発行する広報紙「樹の実だより」には市からの行政に関する情報で利用者に関係のあるお知らせ等も記載しています。また、市福祉事務所の職員の訪問を年2回受け、該当利用者との面談や情報交換を行っています。介護相談員の訪問は月1回あります。介護報酬加算に関する「覚え書」の締結について相談を担当課にしてはいかがでしょうか。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には職員が利用者の日々の様子を伝えていきます。健康状態の変化や緊急時には電話連絡を行っています。毎月「樹の実だより」を発行し、日常のホームの様子や行事の予定・実施したこと等を報告しています。職員の異動も紙面でもお知らせしています。金銭管理については基本的に立替制度をとっており、高額な買い物については事前に家族の了解を得ています。個別の出納ノートに記入し請求内容を知らせ、後日領収書も家族へ送付しています。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的な来訪時や電話対応などで意見・要望を聴いています。いただいた意見は「ご意見ノート」に記し職員間で周知し、必要に応じて検討し改善に向けた取り組みを行っています。今年に入って「家族会」を開催し、食事会や交流会の中で、意見や要望を伺う機会を持ちました。運営推進会議にも家族の代表の参加を得ています。事務室窓口には「ご意見箱」を設置しています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、管理者は継続勤務しており、介護職員も半数以上は3年～6年在籍しています。今年度入職した非常勤職員の2人は再任であり、ホームには馴染みがあります。職員交替時には引継ぎや研修を重視し、利用者には丁寧に紹介し、スタッフの顔写真も掲示しています。「樹の実だより」においても職員の交替を紹介しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には「認知症」「感染症」「緊急時対応」の内容が含まれています。外部研修への参加については情報を提供し、職員の希望する研修への参加を支援しています。外部研修では、「福祉職員中堅職員研修」「パーソンセンタードケア」「リスクマネジメント」「スーパービジョン」等、多数の研修を受けています。新人職員については入職時に「ケアの心得」等を伝えOJT (On the Job Training) による研修を受けています。事業計画において、非常勤職員も参加可能な内部研修を組み立てています。今後も引き続き、外部研修の報告書・資料を伝達し、全職員へ周知徹底することが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの支援を受け、3ヶ月に1回開催される地域のグループホーム連絡会を結成しています。毎回複数の職員が参加し、情報や意見交換等の交流を図っています。また、ホームへの相互訪問も実施できました。利用者へのサービスの質の向上に活かすために、市内や地域の他に「全国認知症グループホーム協会」・「大阪認知症高齢者グループホーム協議会」・「枚方市介護支援専門員連絡協議会」・「社会福祉施設経営者同友会」・「21世紀老人福祉の向上をめざす施設連絡会」にも加盟し、ネットワークを広げています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人と家族でホーム見学をしてもらい、ホームの雰囲気や馴染めるよう配慮しています。必要な場合には再訪もあります。ホームに1ヶ月仮入居（体験入居）の機会を設けています。その間にホームでの生活に馴染めるか、他の利用者、職員との関係性を築いていけるか等を家族の意向を踏まえて確認しています。家族とも十分話し合い、利用者の状況に見合った家族からの支援を得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、日々の関わりの中で、「人生の先輩」として利用者から学ぶことを大切にし、信頼関係を築いています。野菜の切り方を学びながら共に料理を作り、洗濯物たたみ等を行います。戦争の話や食糧難の時に食べた「サツマイモの茎」の話等、興味深く聴きます。また草花の手入れ方法についても学んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の思いや希望を言葉や表情から職員が汲み取り、確認を行い、毎日の作業に取り入れています。「樹の実のケアの実践」・「ケアプラン連動のためのキーワード」の記録書式を個々のできることを把握する目安としています。各利用者のファイルには①自主性の尊重②寄り添うケア③いるがい作り ④閉じ込めない の4項目を表記したページを綴じ込み、日々職員は念頭に入れてケアを実践しています。ケアカンファレンスに利用者本人も加わり、ケアに対する思いを聴き、話し合うことによって納得を得ながらケアプランを作成する場合があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時には本人の希望をアセスメントし、家族からは在宅時での日常生活や、ホームでどのように過ごしてもらいたいかの希望、注意事項を確認しています。職員はケアプランへの「連動のためのキーワード」の用紙に記された個別の課題や視点に基づいた、気づきを個別記録用紙に記録し、サービス担当者会議で話し合いのもと、介護計画作成担当者が計画を作成し、全職員は周知しています。作成した介護計画について、利用者や家族から同意のサインを得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的には6ヶ月ごとに見直し、作成しています。アセスメントシート・見直しシート・ケアプラン連動のためのキーワードを参考に、サービス担当者会議を経て、見直した介護計画を作成し、全職員に周知しています。利用者の状況の変化や退院時や介護度の変更があった場合等は期間内にも見直しをしています。また、緊急の変更の場合は、「ケア指示書」により、ケアへの対応を実践しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急な受診や家族の都合がつかない場合には、職員が通院支援や入退院支援を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者や家族の希望で、入居前からのかかりつけ医に受診できるよう対応をしています。受診時には「情報提供書」としてホームでの生活の様子・体調の変化や経過等を記し、受診に付き添う家族に渡すことで、かかりつけ医に情報を正確に伝えられるように支援しています。基本的に全利用者は月2回（体調不良時は月4回まで可）内科医の往診と週1回訪問看護師による体調把握を受けています。月1回は歯科医の往診があり、歯科衛生師による口腔ケアが月2回あります。ホームには開設の半年後から看護師が非常勤職員として勤務しており、往診時の情報伝達や薬のチェック等のサポートを行っています。協力医療機関との24時間健康管理を含む医療連携体制をとっています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りに関する考え方及び重度化した場合における対応に係る指針」について入居時に家族へ説明を行い、「同意書」を得ています。実際には利用者の入院状況を確認し、医療機関や家族との話し合い、意向を確認しています。また、現場職員とは話し合い、今後もケアの取り組みについて、職員の不安感や負担感などの課題について前向きに検討する予定です。なお、重度化・終末期に取り組んだ一例として、100歳近い利用者が食事も不安定で、寝たきり状態のまま、家族はホームでの看取りを視野に退院した後に、ホームでの生活により車椅子への移乗や食堂で普通食の自力摂取が可能になりました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念と共に、職員に示されている「職員の役割」の4項目の中の「①利用者の尊厳ある個人としての生活を護る」「②利用者が安心できる居場所を確保する。」を念頭に、職員一人ひとりがプライバシーに関する意識の向上を図り、日々の介護の場面でも利用者を尊重した対応、言葉遣いへの注意を心がけています。全職員は、入職時に秘密保持に関する誓約書を提出しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして基本的な一日の流れを作り生活のリズムを整える目安にしていますが、個別に「日課計画表」をケアプラン作成時に作り、個々に合わせたメリハリのある生活が過ごせるよう表記しています。利用者毎に「一日の生活上の注意点」と「本人のこだわり」が記してあり、職員は周知しています。気分により変動のある方には、その時の状態を見て一番落ち着く場所で食事を摂っていただけるよう支援しています。ゆっくりの食事を好まれる方には、せかすことなくマイペースに食事を味わってもらえるよう配慮しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は外注で一括購入していますが、週1回は自主献立の日を定めており、利用者の好みを聞き、季節感を取り入れた献立てを作り、食材の買出しに利用者が同行することもあります。食材提供の管理栄養士が立てた献立でなく、高齢者の好みに合う献立や調理法に変更することもあります。皮むき等下ごしらえ・味付けの吟味・盛り付け等を利用者と共に行い、調理に参加しない方も食堂での作業の物音、匂い等によって食事ができ上がる過程を見守っています。職員も同じテーブルで共に食べながら、さりげなく介助を行う等見守っています。台所の流し台に近づきやすい設計になっており、歩ける方は食後の食器を自分で洗います。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、毎日行っていますが、基本的には週3回は入浴できる体制を採っています。利用者の要望に応じて入浴できるよう努めています。利用者の身体状態や認知力の低下に対応するために「安全に、安心して入浴を実施する」ことを重点に置き、本人の希望に合わせて、ゆったり入浴を楽しめるよう支援しています。入浴拒否の利用者には無理強いせず、足浴などから順次促す工夫をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること、得意なことを把握し、一人ひとり役割を持ちながら過ごせることを支援しています。食事準備の他に、在宅時は家事に無関心だった男性利用者も他の方を見習い「自分もできるよ!」と食器洗いに積極的に参加し、楽しみになりました。ベランダ外のプランターに植えた夏野菜の手入れや収穫、花の水遣り、洗濯物干し・たたみ、食事の献立を毎日書く等を役割としている方を支援しています。読書を好む方は移動図書館の利用を勧めています。入居時にキーボードを持参した方は、リビングでピアノを演奏するのが楽しみです。隣接する保育園から園児が庭伝いに訪問し、日々の交流で元気をもらっています。友人と旅行に出て気晴らしをする方もいます。ボランティアの訪問も楽しみです。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺には田んぼが広がっており、天候の良い日には、農道や公園、色々なコースを設けて散歩に出かけています。また朝食用のパンを買いに行くこともあります。地域のネットワーク事業の「サロン」に参加し、隣接の保育園の行事に参加する等、外出の機会を作っています。行事の中で外出したり、外食にも出かけたりすることもあります。ホームの玄関前やテラスのベンチに座り、外気に触れ季節を感じています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉の改修工事により電子錠に取替え、テンキーで開錠できるように工夫し、日中は開錠しています。1階の玄関は日中開錠しており、玄関先で育てている草花への水やりをしたり、外のベンチに腰掛け、外の田んぼを眺めたり、隣接の保育園に行くことも可能です。利用者の外出願望を尊重して、玄関のチャイムの音で察し、職員が同行し散歩に出かけたり、ユニット間を行き来したりする等、気分転換を図り「閉じ込めない」を実践するよう取り組んでいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の協力を得て、定期的を実施する努力をしています。利用者を含めた避難訓練もさり気なく誘導することを実践し、従来職員が把握している避難経路の確認などを行っています。「甲種防火管理講習」を受講した職員がおり、防火管理者選任届、消防計画書を提出しています。非常時の飲料水や非常食については確保しています。職員の非常時の援助体制名簿を作成していますが、市の防災マップ等入手し、広域災害避難場所等の確認も望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている	利用者一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量 はチェックシートを作成し、職員間で把握し ています。水分摂取量が少ない方は特にこま めにチェックし、居室にもお茶等を置いてい ます。飲みやすい牛乳やカルピス等も勧めま す。栄養バランスについては、食材業者の管 理栄養士が立てたものをホームの食材担当 者が組み立てています。水分摂取がしやす いよう、トロミを付けたり、栄養補食品で 対応している方もいます。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、 食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にと って不快な音や光がないように配慮し、 生活感や季節感を採り入れて、居心地 よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には季節の花が植えられ、つば めの巣もあり、自然豊かな環境です。玄 関前や居室から直接出られる中庭には 木製のベンチを置き、利用者は外気に 触れながら、外の景色を眺めることが できます。食堂に続くオープンキッチン は利用者が出入りしやすく家庭的で 協同作業ができます。壁面には季節感 のある共同制作した貼り絵を飾り、ソ ファ横の棚の上には小さな熱帯魚が泳 いでいます。フロアから少し段差をつ けた和室の畳に寝転んで昼寝すること もでき、冬にはこたつを置き、ソファ ーにはホットカーペットを敷いて暖を 取ることができます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には洗面所、押入れが備え付けられています。入居される際に本人の生活歴や好みの情報収集を行い、今までの生活にできる限り沿った居室の配慮をしています。馴染みの家具、家族の写真、自分の製作品、飾り物、仏壇やパソコン、キーボード等も持ち込まれて個性的で居心地の良いように工夫しています。各居室にはベランダや芝生の庭に出られるようになっており、居室に外気を取り入れながら、洗濯物を干すこともできます。</p>		